

第2学年 社会科学学習指導案

日時 平成17年11月1日(火) 6校時
学級 2年6組 男19名 女19名 計38名
場所 2年6組教室
指導者 教諭 早川 宏昭

1 単元名 第6章 現代の日本と世界 第2節 第二次世界大戦と日本

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領、歴史的分野の内容「(5)近現代の日本と世界」の中項目「力昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きに着目させて、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から戦争までの経過を理解させるとともに、戦時下の国民の生活に着目させる。また、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。」を受けたものである。ここでは、第二次世界大戦の原因から終結までのあらましを欧米諸国の動きやアジア諸国との関係に着目させて理解させ、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことに気付かせることをねらいとしている。特に「戦時下の国民の生活」については、内容の取扱いにあるように、戦時体制下で国民の生活がどう変わったかに着目させるとともに「国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気付かせる」ようにしたい。そのためには、当時の資料の読み取り、考察、まとめなどにより重点を置く必要がある。様々な資料を活用して授業を組み立てることが、本校の研究主題にもある「基礎・基本の定着」につながるものとする。

(2) 生徒の実態

全体的によく話を聞き、意欲的に取り組んでいる学級である。授業中の挙手も多く、特に歴史に対する関心は高い方である。しかし、昨年度から今年度にかけての諸調査・評価問題の結果や授業での観察から「資料活用の技能・表現」の部分が定着していない傾向が見られた。昨年度行われた学習定着度状況調査では、「資料活用の技能・表現」の正答率が県の63%に比べて58%であり、他の観点に比べ最も低い結果となった。したがって、授業においては意欲的な態度から、一見基礎・基本をきちんと理解していると判断してしまいがちであるが、評価テストを行ってみると定着が不十分であるということがよくあった。戦争を扱う本単元において基礎・基本を身に付けさせるためには資料の読み取り、考察、まとめといった地道な活動が必要不可欠である。学ぼうとする意欲を生かし、資料を活用して考察したり判断したりする力をつけ、ねらいとする基礎・基本を定着させたいと考える。

(3) 指導観

(1)・(2)から、継続することが確かな力に結びつくものと考え、日常の授業において意図的に資料を多く扱い、そこから何がわかるか、どう考えるかなどを書かせるなどしてきた。

本単元においては、当初聞き取り調査やインターネットを使い、戦時下の国民の生活を調べそれを発表するという形も考えた。しかし、聞き取りやインターネットで無数にある情報の中から多くの資料を収集し発表することでは、このような実態の生徒たちに資料を活用して考察したり判断したりする能力は身に付かないと考えた。そこで、少ない資料ではあるが、関連のある資料を理由を明確にして選び結びつけるという作業を行わせることにした。具体的には、戦時下の国民生活の様子をあらわす3枚の写真を提示し、なぜそのようなしなければならなかったのかを示す、あるいはそれに関係のある資料を選ぶという作業である。選ぶということに重点をおくため、資料は教師が資料集としてまとめ与えることにした。このように全員が確実に資料を選び結びつけることで不足している資料活用の力が補えるのではないかと考えた。さらに授業の後半ではビデオを見せることで、作業から学んだことの再確認と定着を図るとともに、3枚の写真以外の国民の生活も紹介することにした。これらの指導を行うことで、基礎・基本が身に付くのではないかと考えた。

3 単元の目標及び単元の評価計画（7時間扱い）

単元目標	昭和初期から第二次世界大戦の終結までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きに着目させて、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から戦争までの経過を理解させる。戦時下の国民の生活に着目させるとともに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。	
単元の観点別評価規準	社会的現象への関心・意欲・態度	昭和初期から第二次世界大戦の終結までの日本の歴史のあらましと世界の動きを意欲的に追究しようとする。
	社会的な思考・判断	日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きを通して、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの日本の歴史のあらましと大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを多面的・多角的に考察できる。
	資料活用技能・表現	昭和初期から第二次世界大戦の終結までの日本の歴史のあらましと世界の動きを、様々な資料からその事実を読み取ることができる。
	社会的現象についての知識・理解	昭和初期から第二次世界大戦の終結までの日本の経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から戦争までの経過を世界の動きと関連させて理解するとともに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解できる。

時間	観点	評価場面(方法)	評価規準	具体的評価規準		
				A	B	C 努力を要する生徒への支援
1	学習内容	世界恐慌の起こった原因と、それに対する各国の対応策を理解させる。ファシズムは恐慌に苦しむ民衆を対外侵略や国家主義によって人々を引きつけ、戦争へと進んでいったことを理解する。				
	社会的な思考・判断	ファシズムが勢力を伸ばした原因と、それに反対する動きについて考察する。(発言・学習シート)	ファシズムが勢力を伸ばした原因を考察するとともに、それに反対する動きや、ソ連の動きについても考察することができる。	ファシズムが勢力を伸ばした原因を経済の混乱等と関連づけて考察するとともに、それに反対する動きや、ソ連の動きについても考察することができる。	ファシズムが勢力を伸ばした原因を考察するとともに、それに反対する動きや、ソ連の動きについても考察することができる。	教科書や資料集の写真・資料を用いて、ムッソリーニやヒトラーがどのようにして人々を引きつけたのか考えさせる。
	社会的現象についての知識・理解	わかったことを書く。(学習シート)	世界恐慌の起こった原因と、それに対する各国の対応策を知り、ファシズム国家が戦争への道を歩み始めたことを理解することができる。	世界恐慌の起こった原因と、それに対する各国の対応策を知り、ファシズム国家が戦争への道を歩み始めたことを、各国の領土や植民地の広さと関連づけて理解することができる。	世界恐慌の起こった原因と、それに対する各国の対応策を知り、ファシズム国家が戦争への道を歩み始めたことを理解することができる。	アメリカの繁栄が第一次世界大戦によるものだったことを振り返ることで恐慌が起こった原因を考えさせ、各国の対応策に結びつける。
2	学習内容	慢性的な不況に苦しむ日本は、世界恐慌の影響で打撃を受け社会的な混乱に陥ったことを理解させる。軍部や国家主義団体は、恐慌による日本の危機を中国への侵略で打開しようとしていたことを理解する。				
	資料活用技能・表現	「満州は日本の生命線である」の意味を説明する。(発言・ノート)	「満州は日本の生命線である」の意味を、不景気を示すグラフ等と結びつけて説明することができる。	「満州は日本の生命線である」の意味を、不景気を示すグラフやファシズム等と結びつけて説明することができる。	「満州は日本の生命線である」の意味を、不景気を示すグラフ等と結びつけて説明することができる。	資料を用いて日本の苦しさに気付かせるとともに、満州と日本との関係を振り返らせる。
	社会的現象についての知識・理解	わかったことを書く。(ノート)	世界恐慌が日本に及ぼした影響と日本の慢性的不況との関連、及び、その間に軍部が台頭したことが理解できる。	世界恐慌が日本に及ぼした影響と日本の慢性的不況との関連、及び、その間に軍部が台頭したことが、国民の政党政治や財閥に対する不満とともに理解できる。	世界恐慌が日本に及ぼした影響と日本の慢性的不況との関連、及び、その間に軍部が台頭したことが理解できる。	世界恐慌に対する各国の対応策と比較させて考えさせる。
3	学習内容	日本は満州事変を引き起こして満州を実質的に植民地とし、その後国際連盟を脱退して国際社会で孤立していったことを理解させる。軍部や国家主義者たちは、五・一五事件、二・二六事件を起こし、しだいにその発言力を強めていったことを理解する。				
	社会的現象への関心・意欲・態度	日本が孤立する経緯を調べる。(観察・学習シート)	満州事変をきっかけに国際社会の中孤立することになった日本に対して関心をもち、その経緯を意欲的に調べようとする。	満州事変をきっかけに国際社会の中孤立することになった日本に対して関心をもち、その経緯を諸外国と比較しながら意欲的に調べようとする。	満州事変をきっかけに国際社会の中孤立することになった日本に対して関心をもち、その経緯を意欲的に調べようとする。	第一次世界大戦後の不景気や世界恐慌、「満州は日本の生命線である」の意味を振り返らせる。
	社会的な思考・判断	自分の意見を書く。(学習シート)	五・一五事件や二・二六事件の学習を通して、日本の軍国主義に対して理解を深め自分なりの意見をもつことができる。	五・一五事件や二・二六事件の学習を通して、日本の軍国主義に対して理解を深め、自由や人権、平和の大切さに触れ、意見をまとめることができる。	五・一五事件や二・二六事件の学習を通して、日本の軍国主義に対して理解を深め自分なりの意見をもつことができる。	おそわれた人々とおそわれ方を写真等を使い振り返らせ、その後国内はどのように変わったか考えさせる。
4	学習内容	華北も侵略しようとした日本の軍部や政府は、盧溝橋事件をきっかけに、中国との本格的な戦争を始めたことを理解させる。中国が抗日民族統一戦線をつくって抵抗する中、日本は物資などが欠乏して、国家総動員体制をつくっていったことを理解する。				
	資料活用技能・表現	白地図にまとめる。(白地図)	日中戦争の様相を白地図にまとめることができる。	日中戦争におけるわが国の占領地域やそれに対する抗日民族統一戦線の抵抗を、わかりやすく白地図にまとめることができる。	日中戦争の様相を白地図にまとめることができる。	白地図を使って、東アジアで起こったこれまでのできごとを振り返らせるとともに、本文に出てきた地名を白地図の中で、その位置を確認させる。
	社会的な思考・判断	中国と戦争を始めた理由と、それによる国内の変化について考える。(発言・ノート)	なぜ中国と戦争を始めたのか、またそれによって国内はどのように変わったのか考えることができる。	なぜ中国と戦争を始めたのか、またそれによって国内はどのように変わったのかを、長びく不景気やファシズムと関連づけて考えることができる。	なぜ中国と戦争を始めたのか、またそれによって国内はどのように変わったのか考えることができる。	世界恐慌と、それに対するイタリアやドイツの対応策を振り返らせる。

時間	観点	評価場面 (方法)	評価規準	具体的評価規準		
				A	B	C 努力を要する生徒への支援
5	学習内容	大戦前のドイツ・イタリアの状態を考え、人々がファシズムを支持することが大戦につながったことを気付かせるとともに、ファシズムに反対した運動の実態とその意義を考えさせる。日中戦争が泥沼に陥り、日本は軍事物資を確保するため太平洋戦争を始めたことを理解する。				
	社会的現象への関心・意欲・態度	ユダヤ人が迫害された理由を考える。(観察・発言・学習シート)	戦争が多くの人々に大きな犠牲を強いたことを学習し、戦争の無意味さについて考えようとする。	戦争が多くの人々に大きな犠牲を強いたことを学習し、戦争に対しての自分なりの考えを主張しようとする。	戦争が多くの人々に大きな犠牲を強いたことを学習し、戦争の無意味さについて考えようとする。	統計や写真などの資料を再度個別に提示し考えさせる。
	社会的な思考・判断	地図から、気付いたことを書く。(発言・学習シート)	大戦がファシズム対反ファシズムの対立であったことに気付くことができる。	枢軸国の動きやまわりの国々の反応から、大戦がファシズム対反ファシズムの対立であったことに気付くことができる。	大戦がファシズム対反ファシズムの対立であったことに気付くことができる。	地図で確認することで、対立の構図に気付かせる。
6 (本時)	学習内容	戦時下の国民生活の様子を示す資料から、国民は戦争により多くの制限を受け、苦しい生活を送らなければならなかったことを理解する。				
	資料活用 の技能・表現	資料を選び、理由を書く。(学習シート・カード)	戦時下の国民生活の様子を示す写真に関連のある資料を、理由に選ぶことができる。	戦時下の国民生活の様子を示す写真に関連のある資料を、そのようにしなければならなかった事情にまで踏み込んで選ぶことができる。	戦時下の国民生活の様子を示す写真に関連のある資料を、理由を明確に選ぶことができる。	机間指導で資料の読み取りを再度行い、写真との結びつきを考えさせる。
	社会的現象 についての 知識・理解	わかったことを書く。(学習シート)	戦争により国民は多くの制限を受け、苦しい生活を送らなければならなかったことが理解できる。	戦争により国民は多くの制限を受け、苦しい生活を送らなければならなかったことを理解するとともに、国際平和の実現に努めることの大切さに気付くことができる。	戦争により国民は多くの制限を受け、苦しい生活を送らなければならなかったことが理解できる。	本時の課題を再確認し、これまでの学習を振り返らせる。
7	学習内容	連合国軍の反撃や抵抗運動などによりファシズム諸国が追い詰められ、イタリア・ドイツが降伏した過程を理解させる。戦況が悪化する中、沖縄戦や原爆投下などが行われ、さらにソ連参戦などによって日本が無条件降伏した過程を理解する。				
	社会的な思考・判断	戦争を継続した理由を考える。(発言・ノート)	日本が沖縄戦、原爆投下という大きな犠牲を払うまでして戦争を継続した理由を考えることができる。	日本が沖縄戦、原爆投下という大きな犠牲を払うまでして戦争を継続した理由を、諸資料と関連づけて考えることができる。	日本が沖縄戦、原爆投下という大きな犠牲を払うまでして戦争を継続した理由を考えることができる。	これまでの学習を振り返らせたり、ポツダム宣言の意味を理解させるなどの個別指導を行う。
	社会的現象への関心・意欲・態度	学んだことと、自分の意見を書く。(観察・発言・ノート)	沖縄戦、原爆投下などの学習を通して、戦争の愚かさ、平和を守ることの大切さを実感しようとする。	戦争のない平和な国際社会を築くためには、世界各国がどう協調していけばよいか考えようとする。	沖縄戦、原爆投下などの学習を通して、戦争の愚かさ、平和を守ることの大切さを実感しようとする。	原爆の体験談などを紹介する。

4 本時の指導

(1) 研究主題との関わり

ア 基礎・基本の重点

戦時下の国民生活の様子を示す資料から、国民は戦争により多くの制限を受け、苦しい生活を送らなければならなかったことを理解すること。

イ 課題解決を図るための指導過程の工夫

展開場面で、当時の様子を示す写真を教師が用意した資料と関連づけさせる作業をとり入れることで、課題の解決をねらった。

ウ 評価を生かした指導の工夫

全員に番号を書いたカードを黒板に貼らせることで、誰もが一目で評価できるように工夫した。また、それを見たり、その後の発表を聞いた後、自分の考えを変更できる時間を設けた。

エ 定着を図る工夫

資料を使った作業の後にビデオで当時の生活の様子を見せたり、体験者の話を聞かせることで、作業から学んだことの再確認、定着をねらった。

(2) 展開

段階	学習過程	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	課題の設定	1 前時に提示した3枚の写真について復習する。 2 本時の課題を把握する。	・当時の国民生活の様子をあらわす3枚の大きな写真を黒板に貼る。	
戦争によって国民の生活はどう変わったか				
展開 38分	課題の追究 課題の解決	3 なぜ写真のようにしなければならなかったのか、資料をもとに考える。 4 発表する。 5 ビデオを見る。 6 わかったことをまとめる。	・資料の中から、どの資料が関係しているのか選ばせ、学習シートに選んだ資料の番号と選んだ理由を書かせるとともに、その番号をカードに書かせ、黒板に貼らせる。 ・関係のある資料は、一つとは限らない。支援の必要な生徒には机間指導によって、最低一つは見つけさせたい。 ・黒板に貼られたカードをもとに、なぜその資料を選んだのか等を発表させる。選んだ資料は発表の都度OHPで全体に示す。 ・一通り発表させた後、変更の時間をとる。 ・当時の国民の心情にも触れる。 ・ビデオで当時の生活の様子を見せたり、体験者の話をテープで聞かせることで、資料をもとに学んできたことを再確認させるとともに、3つの写真以外の国民生活についても知らせたい。 ・学習したこと全体からまとめるよう注意する。できれば平和を願う心情も引き出したい。	・資料を選び、理由が書けたか。 技能・表現 (学習シート・カード) ・わかったことが書けたか。 技能・表現 知識・理解 (学習シート)
終末 7分		7 本時の学習を振り返る。 8 次時の予告をする。	・生徒の発表をもとに教師がまとめる。	